

競技について（全国高校総体）

（公財）全国高等学校体育連盟フェンシング専門部試合管理規定より

1 コール

試合は試合開始予定時刻より早まることがあります。

これに伴いコールの時間が早まる場合がありますので、D Tからの放送や本専門部HP試合進行状況情報、D T掲示板の発表等に十分注意してください。遅れた場合は罰則が適用されます。

「運営責任者が行うコール」

(1) 個人対抗

ア. 予選プール

第1試合は開始予定時刻の30分前に開始し、試合開始予定時刻の10分前に終了します。ただし、同日に二つの種目が行われる場合は、前種目の決勝トーナメント前にコールを行います。

コールには監督か出場選手が応じてください。

イ. トーナメント

組合せ発表後、試合開始前に各ピストで行います。

(2) 学校対抗

1日目

第1試合は個人対抗決勝トーナメント前に開始します。その後、試合予定順に従って放送で連絡し、コールを開始します。

2日目

第1試合は開始予定時刻の30分前に開始し、試合開始予定時刻の10分前に終了します。その後、試合予定順に従って放送で連絡し、コールを開始します。

(4回戦以降は前回戦が終了次第、放送で連絡します。直ちにコールに応じて下さい。)

コールは監督が応じ、メンバー表を提出してください。

「ピスト上のコール」☆

個人対抗のコールは出場選手本人が、学校対抗は監督・選手が揃って(チーム)応じて下さい。この時、出場選手は直ちに試合の出来る服装・用具が整っていないとなりません。

ア. 主審によるコールで個人またはチームが現れない場合、技術委員立ち合いの下、1回目のコールが行われ、1分後に現れていない選手やチームにイエローカードが与えられる。

イ. イエローカードが与えられたのち1分後に2回目のコールが行われレッドカードが与えられる。

ウ. レッドカードが与えられたのち 1 分後に 3 回目の最終コールが行われ、現れていない個人選手、チーム全体は競技会から排除される。

2 選手の服装・用具

選手は、相手も自身も危険や不利益にならない適切な服装・用具をつけて出場すること。

※用具検査基準を参照

- (1) ユニフォーム上下(350N)・F I E公認マーク付き半袖プロテクター(800N)・F I E公認マーク付きマスク(1600N)を着用すること。
- (2) 女子選手は(1)の胸当ての他に、上着の下に金属または固い材料で出来ている胸当てを両胸につけること。また、フルーレでは、(2)の胸当ての上にF I E公認ソフトカバーを着用すると。
- (3) 上着の下部は選手のズボンを 10cm は覆うこと。
- (4) グローブは前腕の半ばまで覆うものを使用すること。
- (5) 脛の出ない厚手の黒以外のソックスを着用すること。
- (6) ゼッケンは規定どおり付けること。

3 用具検査

必ず用具検査に合格し、所定の検査合格証がついていること。

4 試合進行

- (1) 個人対抗は、ピストで最初に呼ばれた選手が主審から見て右手側に位置する。最初に呼ばれた選手が左利きで相手が右利きの場合は逆になる。

学校対抗では左利きの選手の多いチームがプレジダンから見て左側に位置する。

- (2) 試合終了後学校対抗は監督が、個人対抗は選手が記録確認の署名をすること。
- (3) 個人対抗における試合順序

ア. 5名プール

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 1-2 | ② 3-4 | ③ 5-1 | ④ 2-3 | ⑤ 5-4 |
| ⑥ 1-3 | ⑦ 2-5 | ⑧ 4-1 | ⑨ 3-5 | ⑩ 4-2 |

イ. 6名プール

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 1-2 | ② 4-3 | ③ 6-5 | ④ 3-1 | ⑤ 2-6 |
| ⑥ 5-4 | ⑦ 1-6 | ⑧ 3-5 | ⑨ 4-2 | ⑩ 5-1 |
| ⑪ 6-4 | ⑫ 2-3 | ⑬ 1-4 | ⑭ 5-2 | ⑮ 3-6 |

- (4) 事故及び病気の取扱について(痙攣も含む)☆

医師または技術委員会の判断により最大限5分間のインジュリータイムを与えられる。ただし、インジュリータイムは治療のみに費やす。

同日中の再休息は新たな事故が原因でない限り与えることは出来ない。

(5) 試合が連続する場合の休息 ☆

ア. 学校対抗では最大限15分とする。

イ. 個人の対戦では、5本勝負は最大3分、15本勝負は最大10分とする。

5 競技方法

[1] 個人対抗

(1) 予選プール

各種目5～6名プール 全参加者のうち上位64名がトーナメントに進出。

① 試合方法

各種目5本勝負で試合時間は3分間(実働)とする。

規定試合時間終了時に同点の場合は後1分間(実働)の1本勝負を行う。この1分間の試合開始前に1分終了後にも同点である場合の勝者を決定するための抽選を行う。

この場合、記録表に記入するスコアはポイントで勝者が決定した場合は勝者に1ポイントを与え、優先権で勝者が決定した場合は両者にはポイントを与えない。

※ 3:2で終了した場合V3:2、3:3で試合時間終了の場合、ポイントで決まった場合V4:3、優先権で決まった場合、V3:3

② プールの全体順位について以下の1)～3)による。☆

1) 勝率($V \div M$)の高い者を上位とする。

2) 突数(TD)÷被突数(TR)の指数の高い者を上位とする。

3) 突数(TD)÷試合数(M)の指数の高い者を上位とする。

※2人以上の選手が64番目で同順位の場合、①の試合方法と同様にバラージを行う。

③ 個人対抗において試合途中で退場した場合

その選手は最初から出場していなかったものとする。

(2) トーナメント

① 試合方法

各種目 15本勝負で試合時間は3分間(実働)3セットとし、各セット間には1分間の休憩がある。サーブルでは、第1セットに3分が経過した時か又は一方の選手が8本を得点した時に終了し休憩に入る。

この休憩の間に監督は選手に話しかけることができる。

規定試合時間終了時に同点の場合は後1分間(実働)の1本勝負を行う。この1分間の試合開始前に1分終了後にも同点である場合の勝者を決定するための抽選を行う。この場合、記録表への記入方法は予選プールと同様とする。

② トーナメントのシードについて以下の1)～4)による。☆

1) 勝率($V \div M$)の高い者を上位とする。

- 2) 突数(TD)÷被突数(TR)の指数の高い者を上位とする。
- 3) 突数(TD)÷試合数(M)の指数の高い者を上位とする。
- 4) 1)、2)、3)が同じ場合は技術委員会において抽選で決める。
※ 同所属高校の選手が進出した場合のシードについては考慮しない。

[2] 学校対抗 ☆

- (1) 1チームは4名編成で、3名選手による総当たりとする。
- (2) 男女とも5本勝負で試合時間は3分間(実働)とする。
規定試合時間終了時に同点の場合は後1分間(実働)の1本勝負を行う。この1分間の試合開始前に1分終了後にも同点である場合の勝者を決定するための抽選を行う。この場合、記録表に記入するスコアはポイントで勝者が決定した場合は勝者に1ポイントを与え、優先権で勝者が決定した場合は両者にはポイントを与えない。
※ 3:2で終了した場合V3:2、3:3で試合時間終了の場合、ポイントで決まった場合V4:3、優先権で決まった場合、V3:3
- (3) 勝敗決定後の試合は行わない。(5勝した時点で試合は終了)
- (4) 参加申込後万一、2名の選手しか揃わない場合でも試合は行うが、各試合の対戦は
(5)の順序で実施する。(欠場選手のスコアは0対5とする。)
- (5) 各試合の対戦は次の順序で実施する。
3-6 1-5 2-4 1-6 3-4 2-5 1-4 2-6 3-5
- (6) リザーブに指定された選手の交代
 - ① 監督は主審に対し、メンバー表提出時にリザーブに指定した選手と他の1選手との交代を1試合(団体)に1回だけ請求できる。
 - ② この場合、被交代選手は1試合(個人)を終了していなければならない。
 - ③ 選手の交代は、当該試合の1試合前までに監督が主審に通告しなければならない。
 - ④ 被交代選手は、その試合(団体)に再び出場することはできない。
- (7) 選手が試合順序を間違っ出て出場した場合
選手の勝ち負けに関係なくその試合を有効とする。ただし、故意におこなったと主審、技術委員または大会役員が判断した場合は罰則の対象となる。

6 その他

- (1) DTでのコール終了までに個人対抗予選プールで棄権がでた場合は、規程の手順に従って組合せを行う。
- (2) 組合せ、試合開始時刻、ピストの変更等、技術委員会からの連絡事項を放送または、DT掲示板でお知らせしますので十分ご注意ください。
- (3) 個人対抗、学校対抗ともに、団体戦の規則を適用します。

「棄権が出た場合の対応について規程」

(1) DTでのコール終了までに個人対抗予選プールで棄権がでた場合

- ①6名プールで1名の棄権がでた場合は、そのまま5名で行う。
- ②5名プールで1名または6名プールで2名の棄権が出た場合は、プール番号の一番若い6名プールのプール内番号6番の選手を棄権が出たプールに移動する。
ただし、移動する選手と同都道府県・同一地区の選手が、棄権が出たプールにいる場合は、移動する選手をプール内番号5番、4番、…と繰り上げてゆく。
- ③棄権選手が、2つの5名プールから1名ずつ出た場合。

例 1・2プールが6名で、3・4プールが5名で棄権が出た。

【順序】

- ア. 3・4プールのどちらに、1プールの選手を移動するのかを抽選で決定する。
- イ. 抽選で4プールが選ばれた場合、1プールの選手を4プールへ移動する。
- ウ. 3プールには、2プールの選手を移動する。

- ④6名プールが2つしかない状態で、棄権の選手が3つの5名プールから1名ずつ出た場合

例 1・2プールが6名で、3・4・5プールが5名で棄権が出た場合

【順序】

- ア. 3・4・5プールのうちどのプールを解体するのか抽選で決める。
- イ. 抽選後、3プールが解体対象となった場合、3プールから棄権が出た4・5プールへそれぞれ選手を抽選にて移動し5名プールを完成させる。
- ウ. あとの2名の選手は、プール番号の一番若い5名プールへ順次抽選にて移動し、6名プールを完成させる。

☆印：全国高体連が主催する大会の特別ルール